

2025年度 学校評価(自己評価)報告書 こども園

	評価単位	評価のまとめ
保育・教育課程	1. 保育目標	○感染防止対策の基本を実施しながらの保育をすすめて、保育目標の達成のため努力した。 ○開園10年目、新年度にあたり新職員を含め、保育目標を確認し、その実現のために協力と連携を重ね取り組むことができた。
	2. 保育・教育課程の編成	○「つながる」保育(遊び・地球・人・保護者・地域)を具体化した保育・教育課程に基づいた保育を構想し実施した。 ○文京区版「教育・保育カリキュラム」を土台とし、本園の実態に合わせ、カリキュラムの理解を進めた。
	3. 保育・教育日数、時間	○1号子どもは区立幼稚園の教育日数と同様、教育時間は、3歳児は4時間、4、5歳児は6時間と設定した。幼児の実態とこども園の生活の流れに合致し、安定した教育が提供できている。1号子ども(3歳児)の入園前に一日入園を実施し、入園時における安定に繋げることができた。 ○2号、3号子どもについては、保護者の就労時間に応じた保育時間になっている。入園当初は、子どもの状態に合わせて1週間程の慣れ保育を実施。保護者の理解を得て実施することができ、入園時における安定につなげることができた。
	4. 保育・教育内容と成果計画・環境構成	○7:15～19:15までのシフト勤務を行う中での打ち合わせや会議の時間確保については、学年間での協力体制をもとに、実現し、その中で効率的な打ち合わせ実施に向けて努力した。 ○戸外活動を積極的に取り入れて保育を行った。 ○とうきょうすくわくプログラムを実施し、「葉」をテーマに全クラスが取り組み、身近な自然とのかかわりの中で探究活動に取り組んだ。 ○お茶大ポケット・ガーデン創生プロジェクトに取り組み、散歩の折ごとに花や木に水やりをし、成長を楽しみに育てている。 ○他園の協力のもと、稲刈りや芋堀及び年長児の交流と貴重な実体験を実施することができた。 ○特別な配慮を必要とする子どもの保育・教育については、個別指導計画を保護者と確認をしながら丁寧に進めた。
	5. 行事	○保育・教育に保護者も参加する機会を多くもち、保育・教育の理解が深まった。保護者同士の交流がもてるように工夫し実施したことで、保護者より感謝の声が多くあった。 ○こども園の10周年記念祝いの植樹会を行い、共に喜び記念樹を育てる活動を継続している。 ○キャンパス内は自由に散策することができる環境を生かし、遠足や秋を祝う会、運動会、表現遊びの会を実施した。保護者より、子どもの成長を喜び育児を振り返ったり、日本の伝統文化に親子で触れる機会があり保育・教育の取り組みへの感謝の声が多くあった。
	6. 研究・研修	○研究会では、子どもの姿(画像とエピソード)を持ち寄って実施し、学びの多い研究会となった。 ○第10回お茶大こどもフォーラムを3月1日に実施。内容として、「食」と「保育」に重点を置き、語り合いを深め学び合うことを提案した。 ○3園合同研究会や外部の研修会への積極的に熱心な参加姿勢があった。 ○他園の見学や研究会への参加を実施し視野を広げ保育に活かした。 ○附属小学校の第88回教育実践指導研究会に参加し、就学前の保育・教育について学びを新たにして保育に活かした。 ○東京都が指定した研修実施機関に於いて、専門別研修(①乳児保育、②幼児保育、③障害児保育、④食育・アレルギー対応、⑤保健衛生・安全対策、⑥保護者支援・子育て支援)を受講する保育士等キャリアアップ研修は、延べ11人が受講した。
園運営(保育・教育課程を支える諸条件)	1. 経営・組織	○開園10年目となり、新職員を含め感染防止対策の基本を行う中での園運営を行い、施設長を中心に互いに声を掛け合い、安全で安心な園運営実現のため協力し合う組織となることができた。 ○主任保育士や保育リーダーが力を発揮し、園運営の要としての役割を果たした。 ○令和4年度に続き、2回目の福祉サービス第三者評価を受けた。結果を基にして、現状の振り返りと共に質の向上へつなげている。 ○こども園支援システム「コドモン」を導入し、登降園管理や園だより等の発信とアンケート回収を行い効率性を図った。
	2. 出納・整理	○施設長、事務職員、こども園担当事務職員(附属学校課)が協力し、計画的かつ適切な会計管理を行っている。 ○附属学校部への相談に対して常に迅速な対応をいただき、安心して園運営を進めることができた。 ○運営費を計画的に使い、豊かな保育・教育活動を展開した。
	3. 施設・設備	○毎月の避難訓練時に施設の安全点検を実施し、安全で安心な園環境を推進できた。 ○空調設備の清掃は、業者委託を計画的に実施していきたい。 ○用務員による手作り遊具や家具作成により、豊かな保育環境が実現した。
	4. 健康	○看護師による保健指導や日々の健康状態の確認を計画的に実施。保健だよりを月1回発行。玄関掲示板に、伝染病情報を随時掲示し注意喚起をしている。感染防止対策についても、消毒薬の設置、手洗い指導などを実施した。 ○栄養士による食育指導を計画的に実施。毎月発行の献立予定表に食育内容を掲載したり掲示することで家庭での取り組みのきっかけ作りを行った。日本各地の郷土料理の紹介や海外の食体験を取り入れ、調理を子どもたちが体験する機会を設定。食への関心が高まるよう工夫した。ランチパック給食(弁当箱に給食をつめて戸外で食べる)を年数回実施。子どもたちの喜びが増した。 ○アレルギー対応児保護者との面談(施設長・担任・看護師・栄養士)を実施した。 ○特別な配慮を要する子へは、施設長・主任・看護師・栄養士・担任の情報共有と連携のもと、保護者面談を重ね保育を進めた。
	5. 安全	○毎月避難訓練と大地震訓練を実施した。時間帯により、勤務する職員が代わるため、多様な時間帯の訓練を行った。 ○毎月安全指導を実施した。園内外の安全な過ごし方、キャンパス内の行動の仕方など、場面に応じた指導を重ねている。 ○安全点検は、避難訓練時に毎月実施した。点検項目を整理し、課題解決を徹底して行った。 ○文京区eメッセージ(災害等情報)や大規模災害共有訓練を文京区と連携し実施した。 ○大学の総合避難訓練や研修に参加し意識を高めた。 ○附属小学校と連携し、校庭避難を実施し課題について大学担当者と確認を行い対応案をまとめた。
	6. 情報	○情報管理の重要性について全職員で研修した。 ○限られた事務スペースの中で書類等の収納場所を整理し、情報管理に努力したが、さらに整備していきたい。
	7. 開かれたこども園	○地域のサークルによる絵本の読み聞かせを、5月～3月まで月1回を継続的に実施した。 ○年長児による地域訪問・地域散策は、秋以降に実施した。地域については話題にし関心をもてるようにした。 ○中央区立幼稚園年長児クラスと、お茶大キャンパス内で交流活動をした。 ○地域の子育て家庭を対象として、園見学を5月～11月迄に15回(1日5組)を実施した。大人82名・子ども43名が参加した。
	8. 入園事務	○園紹介を撮影し区で放映されている。入園受付や抽選は昨年に引き続き区で実施した。非常にスムーズに実施できた。 ○入園決定後の対応(面接、健康診断等)については、保護者の不安に耳を傾け、丁寧な対応を実施した。
	9. 保護者との連携	○日々の登降時における確実な声かけや連絡帳や掲示で子どもたちや保育の様子を伝える対応を積み重ねた。 ○保護者会について、全体会の後でクラスごとに時間を分けたり異年齢の保護者が話し合えるように、方法や保護者同士の交流を工夫をしながら開催した。好評の感想が多く寄せられた。 ○保育活動外の取り組みであるワクワクデーは、9月、12月(2回)1月、3月の5回開催した。時間差をつけて参加できるように企画。戸外活動を中心に実施した。内容の充実に対して、感謝の言葉が多く聞かれた。

	評価単位	評価のまとめ
B	大学との連携	1. 連携研究 ○三園合同研究会において乳幼児教育について研究を深めた。 ○お茶大ポケット・ガーデン創生プロジェクトに取り組んだ。
		2. 授業交流・大学等 ○子ども学フィールドワーク、子ども学コース卒業論文調査研究、保育学演習Ⅱ、保育内容総論、子どもと健康、生活科学部環境デザイン論、保育デザイン論基礎演習、大学院研究、基幹研究院(人間科学系)研究の授業等で保育参観を受け入れた。 学生の参観を受け入れることは、こども園の存在感を増す機会にもなり、効果的だと思われる。 ○大学の体育館を使用し、運動会や授業協力を行った。大学グラウンドは使用されていない時に限り、自由に活用し運動する体験を重ねている。
		3. 専門委員会 ○保健専門委員会、研究推進委員会、保育所専門委員会に参加している。大学や附属学校の動向を確認している。
		4. インターンシップ ○1名受け入れ。6月～1月まで0歳児から5歳児クラスを担当した。年齢による違いを実感しながら主に1歳児に重点を置き、こども園ならではのインターンシップとなった。職員との対話や振り返りの機会を大切にすることで、保育についての学びが深まり経験が重ねられた。
	社会貢献	1. 参観・研修受け入れ ○参観・研修の受け入れは、依頼を受け積極的に受け入れ、年間(4月～3月上旬)1303名程度の参観者だった。 ○おちゃいんど。ボランティアは、年間(4月～2月)399名の参加者だった。 ○小学校や中学校のボランティアは、年間(4月～2月)59名の参加者だった。 ○東京都高校生向け「保育の仕事 職場体験事業」を7・8月で5日間、3名を受け入れた。
		2. お茶大こどもフォーラム参加 2026年3月1日(日)に実施。全大会では、2回のシンポジウムがあり①作って食べる生活～食・命・SDGs～②「保育」の未来を語り合う、と題し学びあった。また、6つの分科会では、①語り合おう！保育のこと②体を動かしてたくさん遊ぼう！③「創る」と共にある暮らし④乳児保育を考える～環境・素材～⑤令和6年度「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業」報告と題し、多彩なテーマで学びの提案をした。職員の83%が参加し学びを深めた。
		3. 現職研修 ○文京区立幼稚園の研究会に元園長が講師として参加し、本園の実践をもとに保育の見直しをすすめる視点を提案した。
		4. 他大学の保育実習等受け入れ ○東京家政学院大学(2名)、和洋女子大学教員(2名)、桜美林大学教員、甲南大学教員、十文字学園女子大学教員、岩手大学教員、山梨県立大学教員、東京成徳大学教員、東京学芸大学教員、静岡県立大学教員、國學院大学教員の研究観察を受け入れ研究の協力を行った。(年間13名) ○和洋女子大学卒業研究観察(1名)、東京学芸大学学生(1名)、東京成徳大学学生(10名)、聖心女子大学保育実習(2名)を受け入れた。
5. 途上国支援 ○海外からの来園者を受け入れた。15か国50名		
6. 出版活動 ○季刊誌『幼児の教育』編集、原稿提供に協力した。 ○「開園5周年記念実践報告書」「お茶大発 子育て応援BOOK のびのび子育て」を、要望に応じて配布している。 ○「げんきがでるでる ざっこくまい」を配布し食育推進を行った。 ○お茶大ポケット・ガーデン創生プロジェクトのガーデンマップを配布し自然緑化の体験に取り組んだ。		
7. 各種研究会への協力・支援 ○認定こども園連絡協議会の研修会に、公開園として協力した。		
8. 子育て支援事業 ○地域の子育て家庭を対象として、園見学を5月～2月迄に15回(1日5組)を実施し、来園者の子育ての悩みなどについても対応した。 ○地域の子育て家庭を対象として、附属幼稚園、いずみナーサリーとの3園で、子育て応援プロジェクトののびのび子育てサロンを2回(9月、12月)に実施した。参加者からは、内容の満足と次への期待する意見等が多くあった。 ○こども家庭庁「はじめの100か月の育ちビジョン」取材協力をしている。 ○東京都福祉局「魅力ある保育」記事協力をしている。		

2025年度学校評価(自己評価)まとめ (課題)

<保育・教育課程>

- ・一人一人の主体性を大切にし能動性の発揮を促す保育、教育の実現に向けた努力を重ね、生き生きと活動する子どもたちに成長してきている。こども園として多様性を尊重し活かしあう保育・教育については、ゆるぎなく実践した。
- ・今年度よりとうきょうすくわくプログラムに取り組んだ。「葉」をテーマに全クラスが充実した探究活動を展開している。

<園運営>

- ・計画的な予算執行を行い、園内環境を充実させ、安定した園運営を実現した。
- ・定期的な園内研究では、現状の振り返りと質の向上へつなげる視点が明確になり取り組むことができた。継続していきたい。
- ・常勤職員及び非常勤職員の研修の機会を設定し、保育・教育の在り方について共通理解を図り、豊かな園運営に繋げた。
- ・2回目の第三者評価を実施し、現状の振り返りと共に保育の質の向上へつなげている。

<大学との連携>

- ・安全対策や感染防止対策について、附属学校部から基本方針が出されることで迷いなく取り組むことができた。今後も、常に報告、連絡、相談を心がけていく。
- ・お茶大ポケット・ガーデン創生プロジェクトに取り組み、植栽した花や木に水やりをしたり、成長の様子を見たりして、楽しみに育てている。

<社会貢献>

- ・こども園の実践をまとめた「子どもたちの「やりたい！」が発揮される保育環境」(2019年4月発行)、「思いをつなぐ保育の環境構成」全3巻(2021年3月発行)は、版を重ねている。具体的な事例を多く掲載し、参考になるという高評価を得ている。
- ・「お茶大こども園実践報告集」(2021年3月作成)、「お茶大発 子育て応援BOOK のびのび子育て」を要望を受けて、関係機関や見学者等に配布した。
- ・3月に開催した第10回お茶大こどもフォーラムに参加し、全体会や分科会で、保育教育の実践について提案した。
- ・年間約1303名の園見学者(保育関係)を受け入れ、認定こども園の保育・教育の在り方について発信を重ねた。